

NC伝助Ⅱシステム
PC側設定マニュアル

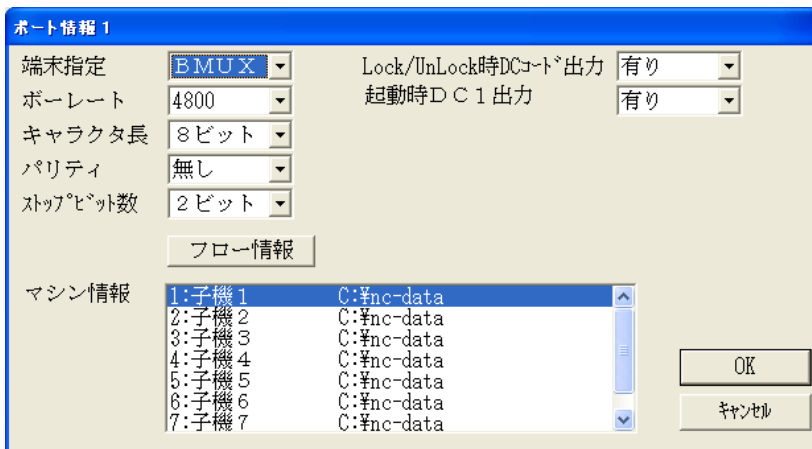
目次

I. ポート情報設定	3
II. 履歴ファイル設定	18
III. O0997 メッセージ	19
IV. ファイルオープン設定	20
V. 終了確認時間設定	21
VI. WindowsNT DNC/PCI 版 Set up	
(PCI版通信ボード挿入時のみ)	
VII. ボード設定	
(通信ボード挿入時のみ)	

I. ポート情報設定



メニューバーの[設定]をクリック後、[ポート情報]をクリックします。



ポート情報設定画面が表示され、次の設定変更が行なえます。

端末指定



パソコンが最初(直接)に通信する相手機器の種類を設定します。

無線(伝助トブンダー)通信の場合は BMUX を、NC 機に直接接続する場合は NC を指定して下さい。

ボーレート

NC機と同じ通信ボーレート(600～38400bps)を設定します。

出荷時の設定値は、お客様のご指定値にしてあります。

この値を変更した場合は、伝助トブンダー(親機・子機)内部のディップスイッチの変更も必要となりますので、ご注意下さい。

キャラクタ長

通信データの 1 文字(キャラクタ)を構成するビット数を設定します。

通常は、「8ビット」です。

パリティ

パリティチェックビットを付加するかどうかを設定します。

通常は「無し」です。

ストップビット

通常は「2ビット」です。

Lock/Unlock 時

無線通信時、ポートのロック・アンロックに伴って、DCコード出力及びDCコード制御を行なうかどうかを選択します。

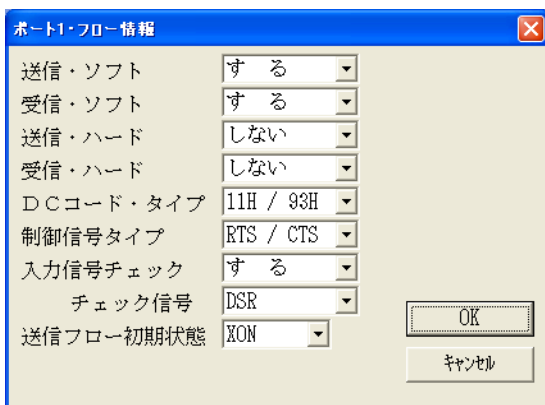
通常は「有り」に設定した方が通信は安定します。

起動時DC1出力

DNCを起動した時に、相手機器にDC1を送出します。相手機器がDC3を受けて待機中だった場合に、送信を促すことができます。通常は「有り」です。

フロー情報

をクリックします。



通信制御(ビジー制御)に関する設定ができます。

送信・ソフト

送信に対してソフトウェアハンドシェイクするかどうかを設定します。「する」にすると、相手機器からくる DC コードによって、送信が制御されます。通常は「する」です。

※ ソフトウェアハンドシェイクは、X-onX-off の制御ともいわれ、受信側から DC1 コード(Go)と DC3 コード(Stop)を出して、相手機器の送信(データ)出力を制御します。

受信・ソフト

受信に対してソフトウェアハンドシェイクするかどうかを設定します。
「する」にすると、相手機器へ DC コードを出して、受信を制御します。
通常は「する」です。

送信・ハード

送信に対してハードウェアハンドシェイクするかどうかを設定します。
「する」にすると、相手機器から来る信号線によって、送信が制御
されます。通常は「しない」です。

※ ハードウェアハンドシェイクは、同じケーブル内にデータ通信線
に隣接して配線される信号線を Hi、Low させて、相手機器の
送信を制御します。

受信・ハード

受信に対してハードウェアハンドシェイクするかどうかを設定します。
「する」にすると、相手機器への信号線で、受信を制御します。
通常は「しない」です。

DC コード・タイプ

ソフトウェアハンドシェイクで使う DC3 コードが、16 進の 13H もしく
は 93H(13H を 7 ビット偶数パリティにすれば 93H)の何れであるか
を設定します。通常 NC 機は 93H ですので、NC 伝助 II は 93H を
標準にしています。

制御信号タイプ

ハードウェアハンドシェイクで使う信号線を選択します。
通常は RTS/CTS です。

入力信号チェック

通信時に、相手機器や通信線に異常がおきていないか、入力信号線で常にチェックするか否かを設定します。通常は「する」です。

チェック信号

入力信号線チェックを「する」にした場合に、どの入力信号線をチェックするかを設定します。通常は「CTS」です。「DSR」にした場合、ケーブルがファンク仕様の際は無意味です。

※ ファンク仕様ケーブルは通常 DTR と DSR は折返し接続されています。

送信フロー初期状態

DNC 起動時に、XON 状態(送信既許可/いつでも送信できる)にするか、XOFF 状態(送信許可待ち/DC1 が来るまで待つ)にするかを設定します。NC 機と直接つないだ場合は「XOFF」(DC1 がきてから送信開始)。途中に通信機器(AMUX、BMUX 等)を介在させた場合は「XON」(途中の通信機器まで無条件に送信開始)。

マシン情報	子機名	パス名
1:	子機 1	C:\¥nc-data
2:	子機 2	C:\¥nc-data
3:	子機 3	C:\¥nc-data
4:	子機 4	C:\¥nc-data
5:	子機 5	C:\¥nc-data
6:	子機 6	C:\¥nc-data
7:	子機 7	C:\¥nc-data

マシン情報のリストボックスには、そのポートに接続されている伝助トブンダー子機の名称と、パス名(子機別専用ディレクトリ)が表示されます。選択してクリックすると、子機ごとの情報が表示されます。

マシン情報 1 (ポート)

マシン名称: 子機 1 | 自動盤

(コメント)

メモリ・スレーブ No: No.1スレーブ*

DNC・スレーブ No: No.1スレーブ*

パス名: C:\¥nc-data

使用コード: ISO

ネーミングタイプ: TYPE-1

プログラム番号タイプ: O番号

送信許可タイムアウト: 0

BMUXハフバックリア: 有り

エラー時クリア: 有り

複数送信の間の%: 非出力

受信エラー通知: 非出力

受信正常通知: 非出力

稼働情報収集: 無し

MEM送信加工: 有り

送信削除文字

送信変換文字

⇒

詳細

AMUX

OK

キャンセル

最新情報

子機名称の登録及び、子機接続先種別(自動版・伝助・NC 等)の選択、メモリ・スレーブ No と DNC・スレーブ No の設定、及び

パス名(データの管理先)の登録をします。

※ DNC・スレーブ No は、NC 機側でメモリポートと DNC ポートが別れているときに、DNC 側への送信用に使用します。

使用コード

EIA、ISO、ASC のいずれかを選択します。通常 NC 機は受信時に自動選択しますが、パソコン側はしませんので必ず、NC 機が送信時に使用するコードと同じコードを設定して下さい。

ネーミングタイプ

受信時に、何をもとにデータファイル名を決めるかを設定します。

TYPE-1 データの中の最初の〇と、それに続くプログラム番号をファイル名にします。

TYPE-2 データ部の前にする \$ と、それに続くプログラム番号をファイル名にします。

OKUMA(OSP5000 等)向けです。

TYPE-3 データの中の最初の()に囲まれた文字列をファイル名にします。

TYPE-4 既存のファイルと重複しない、〇とそれに続くプログラム番号をパソコンが自動選択してファイル名にします。

プログラム番号タイプ

O0997(データファイル無し情報)等の場合などに L 番号も選択できるようにしました。

送信許可タイムアウト

送信開始時に、相手機器から送信許可(DC1)が来るのを待つ時間を設定します。設定範囲は 0~999 で、単位は秒です。

- 0 : 直前のフロー状態に基づいて送信を開始します。直前の通信が DC1 を受けて終了していればフロー状態は X-on ですから、何も待たずに送信を開始します。DC3 を受けていれば、X-off 状態ですから、DC1 が来るまで永久に待ちます。で伝助トプンダー (BMUX 等がある場合) はこの設定にしてください。
- 999 : 直前のフロー状態にかかわらず、DC1 を永久に待ちます。NC 機へ直接繋ぐ場合はこの設定にしてください。
- 1~999: 前のフロー状態にかかわらず、DC1 を設定された秒数待って、その間に来ないとタイムアウトエラーになって送信を取止めます。

BMUX バッファクリア

送信開始前に介在機器 (AMUX、BMUX 等) にバッファクリア命令を送出するかどうかを設定します。

エラー時クリア

上記の BMUX バッファクリアを「有り」に設定したとき、通信エラーが発生したときにもバッファクリア命令を送出するかどうかを設定します。

複数送信の間の%

NC 機からのリクエスト時、ファイルを複数連続して送信する時に、ファイル間に % を送付するかどうかを設定します。通常「非送付」にすると、NC 機側では一度の操作で連続読み、「送付」にするとファイルごとの読み操作になります。

受信エラー通知

受信エラーが発生したとき、エラー通知を相手機器に送出するかどうかを設定します。

受信正常通知

受信が正常に終了したとき、正常終了通知を相手機器に送出するかどうかを設定します。

稼動情報収集

稼動情報収集(Dプリント機能等による)をおこなうかどうかを設定します。

MEM 送信加工

無しに設定するとメモリ送信時にデータの加工を一切しません。データ内に%があってもそのまま送出します。

送信削除文字

内をチェックすると、削除文字を入力できます。送信時に指定した文字を削除します。

送信変換文字

内をチェックすると、変換文字を入力できます。送信時に左枠で指定した文字を右枠で指定して文字に変換します。

詳細

をクリックすると相手先機器(子機)ごとの詳細情報があらわれます。

詳細情報:ポート1・マシン情報 1			
受信タイムアウト	20	受信タイムアウトの扱い	エラー
受信開始条件	EOBを検出	受信終了条件	%を検出
通信データ表示	有り	NC画面表示桁数	40
同一名退避機能	有り	ファイル名コメント行番号	1
EOBのタイプ	無変換	リクエストファイル・スペース	カットする
SYN/NAK	95H / 96H	NCリセット・全送信クリア	する
履歴件数	500	送信許可待ち信号	チェックしない
		エラー-BEEP	無し
<メモリ>		<DNC>	
TVチェック	する	する	
括弧内TVチェック	する	する	
未定義文字の削除	する	する	
EOBのみの行の削除	しない	しない	
○番号	送出	○番号だけカット	
コメント	送出	送出	
D2・D4	非送出	非送出	
先頭の%	送出	送出	
フィート長/Head	0	0	
フィート長/Foot	0	0	
フッター送信	する	する	

OK

キャンセル

受信タイムアウト

受信時に、相手機器からの送信が中断した場合、通信異常と判断するまで何秒待つかを設定します。

受信開始条件

受信時にデータの先頭を何で検知するかを設定します。

通信データ表示

通信時にマシン詳細画面上に、通信中のデータを表示するかどうかを設定します。「無し」に設定すると、通信速度が上がります。

※ 通信速度が上がっても、ボーレートが変わるわけではありません。
設定されたボーレートの範囲で通信密度が上がるという意味です。

同一名退避機能

受信時に、同名の既存のファイルにデータが上書きされるのを防ぎます。「有り」にすると、既に同名ファイルがあった場合に、拡張子だけ変更して既存ファイルを退避させます(バックアップファイル=*.BK0～BK9=古いデータ程数字が大きくなります)。「無し」にすると、同名ファイルに上書きします。

EOBのタイプ

通信時にEOBを変換するかしないかを設定します。CRに設定した場合、受信時にはデータ内のCRをLFに、送信時にはLFをCRに変換します。

SYN/NAK

通信中における、NC機側リセット要求としてのSYN/NAK検出の有無及び使用コードを選択します。

履歴件数

通信記録機能の記録可能な履歴データ件数を設定します。

設定 範囲は、0～99999999 です。

0 : 非作成

99999999 : 無制限

1～99999998： 設定件数だけ記録可能です。設定を超えると、古いものから順次消されて行きます。

受信タイムアウトの扱い

受信中に受信タイムアウトが発生した場合、エラーにするか、正常終了にするかを設定します。相手機器が送信時にデータの末尾に%を付けない場合に、タイムアウトを送信の終了とさせることができます。

受信終了条件

受信時にデータの終りを何で検知するかを設定します。%もしくは、DC4 のどちらかを選択できます。

NC 画面表示桁数

NC 機側でのファイル一覧リクエスト機能を使用する場合の NC 機のディスプレイで 1 行で表示出来る桁数を設定します。

ファイル名コメント行番号

ネーミングタイプがTYPE-3の時、受信データ中のコメント(註釈)の何行目をファイル名として採用するかを設定します。

リクエストファイル・スペース

リクエストデータのファイル名中のスペースをカットするかどうかを設定します。NC 機によってはスペースを混入して出力する場合があります。

NC リセット・全送信クリア

NC 機側から通信のリセット要求が来た場合、送信待ちのものを

全てキャンセルするか、通信中のものだけをキャンセルするかを選択します。

送信許可待ち信号

[ポート・フロー情報]の「入力信号チェック」を「する」に設定し、この設定も[チェックする]に設定すると、NC 機側からのチェック信号が ON から OFF に変わったときに送信キャンセルできます。

エラーBeep

次項目からは<メモリ送信>と<DNC 送信>のそれぞれ個別に設定します。

TV チェック

送信時に TV チェック対応加工(1 行を偶数文字数にする)をするかどうかを設定します。

括弧内 TV チェック

括弧内の文字列(注釈)も含めて TV チェック対応をするかどうかを設定します。

未定義文字の削除

設定したコード(ISO・EIA・ASCII)に定義されていない文字を削除するかどうかを設定します。ただし「しない」と設定しても%は削除

します。

※ この NC 伝助Ⅱでは、受信時には、%は一切ファイルの中に書込みません。送信中は、データの中に%があった場合はすべて削除します。%の送出手は、全てアプリケーション上で管理しています。

EOB のみの行の削除

1 行(1 ブロック)内に、EOB しかない行を削除するかどうかを設定します。

○番号

データの中に○とそれに続くプログラム番号があると、通信障害(データ異常)を起こしてしまう NC 機があります。その場合に「カット」を選択して下さい。但し、:(コロン)と L も O と同じ扱いをしてカットしますのでご注意下さい。通常は「送出手」を設定して下さい。

コメント

送信時にデータの中の()に囲まれたコメント(注釈)部を、そのまま送出手するか、カットするかを設定します。

D2・D4

データの先頭の D2 コード(12H)と末尾の D4 コード(14H)を送出手するか否かを設定します。D2・D4 を送出手しないと起動しないテープパンチャー機があります。また一方で、D2・D4 があるとエラーを起す NC があります。

先頭の%

送信時にデータの先頭に%を送出手するか否かを設定します。通常

は「送出」にして下さい。まれに先頭に%があると通信エラーを起してしまう機器があります。その場合は「非送出」にして下さい。

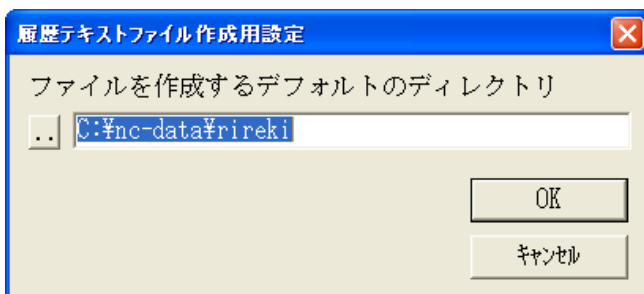
フィールド長

送信時にデータに先行して送出するフィールドの長さ(文字数)を設定します。ヘッダ一部、フッター部それぞれ別々に設定できます。設定範囲は 0～800 文字です。

II. 履歴ファイル設定



メニューバーの[設定]をクリック後、[履歴ファイル]をクリックします。



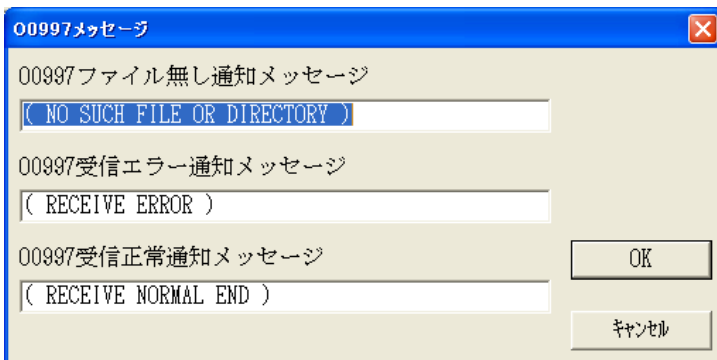
履歴テキストファイルを作成するディレクトリを設定します。

※ とりあえずここでは「C:\¥nc-data¥rireki」と入力設定することになります。

Ⅲ. O0997 メッセージ



メニューバーの[設定]をクリック後、[O0997 メッセージ]をクリックします。



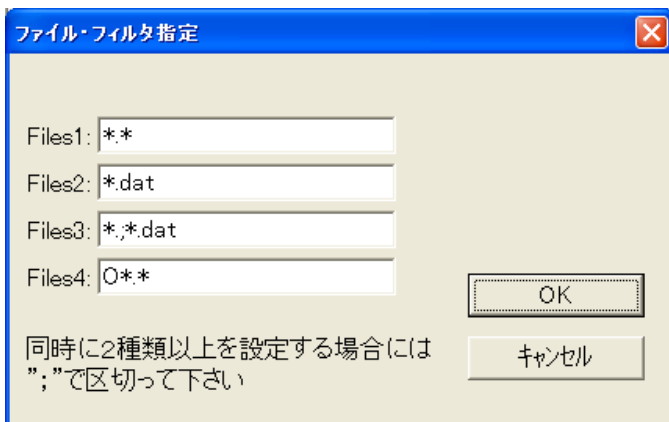
O0997 通知メッセージを変更できます。

このメッセージは、相手機器から送信リクエストされた時に、ファイルが無いなど不具合が発生したとき、また、相手機器からデータが送られてきたときの受信が正常に終了したかなどを、相手機器に知らせるために送り返すものです。

IV. ファイルオープン設定



メニューバーの[設定]をクリック後、[ファイルオープン設定]をクリックします。

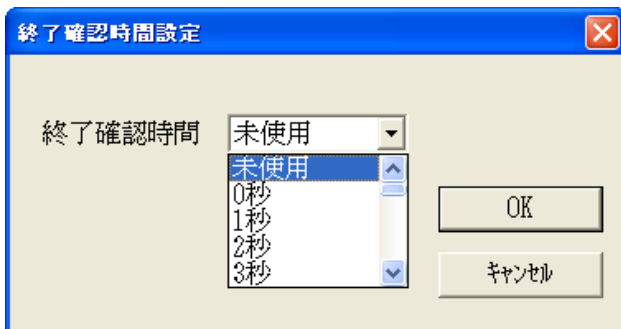


ファイル・フィルタ指定用に、4通りのファイルオープン設定ができます。
通常使用のものを、Files1 に設定すると便利です。

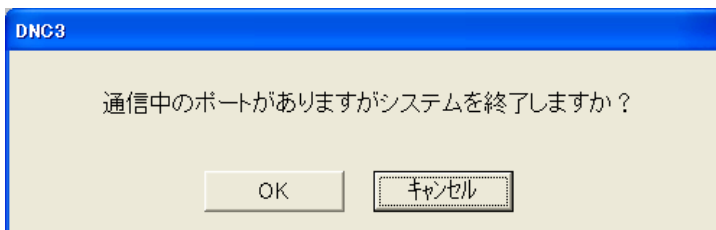
V. 終了確認時間設定



メニューバーの[設定]をクリック後、[終了確認時間設定]をクリックします。



アプリケーションの終了を選択した時、NC 伝助 II システムがまだ通信中だった場合、次の画面が表示されます。



この画面を表示する時間が終了確認時間です。時間が 0 秒以上で設定された場合、キャンセルしない限り、設定時間でアプリケーションは

終了します。未使用の設定のままですと、回答があるまで待ち続けます。不意に停電が起った時の電源装置との連携による安全終了に対応したものです。